



学校だより

たつだ



No, 6

令和6年9月2日

文責 穴井

【校訓】 健康 誠実 協力

自分も周りの人も大切にし、笑顔あふれる龍田小学校をつくろう ~人と言葉と命を大切に~

今日の始業式では、以下のようなことについてお話ししました。

みなさん おはようございます。いよいよ2学期の始まりです。みなさんの元気そうな姿を見ることができて、とてもうれしく思います。

今年の龍田小学校の目標は、「自分も周りの人も大切にし、笑顔あふれる龍田小学校をつくろう」ですね。それを達成するために「人と言葉と命を大切に」していきたいと思っています。今日は、「自分を大切にすること」についてお話をします。

さて、今年はパリでオリンピックが開かれました。テレビやニュースで見た人も多かったことと思います。そして、いま、パラリンピックが行われています。パラリンピックは、障がいのあるアスリートのオリンピックです。あるパラリンピック選手の言葉です。

「僕は自分を障がい者だと思っていない。例えば、高齢者で体が動かなくなる。視力が落ちる。みんなそれを障がいではなく、年を取るという自分の一部だと考える。それに似ている。皆、何らかの障がいを抱えているといってもいい。大きな違いはないと思います。」

この選手のメッセージから、本当の障がいというものは、「自分にはできない」とあきらめてしまう心の壁だということに気づきます。

そこで質問です。

A 50メートル平泳ぎ 48秒04

B 100メートル平泳ぎ 59秒03

どちらがすごい？

単純には比べられませんが、最初の記録 50メートル48秒は、100メートルに直すと96秒ほどでしょうか？こうしてみると、Bの記録がすごいような感じですね。どうですか？

実は、Bの100メートル平泳ぎ 59秒03は、今年のパリオリンピックの金メダリストの方の記録です。

そして、Aの50メートル平泳ぎ 48秒04は、パリパラリンピック、「運動機能障害」のクラスで鈴木孝幸選手が自己ベストを更新して金メダルをとったタイムなのです。37歳の鈴木選手は過去5大会で10個のメダルを獲得している競泳界のレジェンドです。

鈴木選手は、生まれつき右腕の肘から先がなく、左手は指が3本、右足は根本付近からなく、左足は膝から下がありません。そんな鈴木選手は、6歳から水泳を始め、いろいろな大会でメダルを取るまでに成長されました。

鈴木選手は、16年前、21歳の時の北京大会で自己ベストをだして、金メダルとなりました。その後、自己ベストをずっと更新できなくて諦めそうになったときもあったそうです。それでも、「16年前の自分を超越する」と約束し、練習に励み、作戦も立てて今回「自分を超越する」ことを実現させました。

年齢や体の不自由さに関係なく自分という存在はいつでも超越されるということを鈴木選手は教えてくれました。

オリンピックで金メダルを取ることもすごいのですが、世の中には、オリンピックの金メダルのように早くはなくてもすごい人がたくさんいます。自分の体の不自由さと闘いながらも「自分にはできない」という心の壁を作らない鈴木選手、「他の人と比べるのではなく、自分を超越する」と決めてがんばる鈴木選手は本当に「自分を大切にしている」すごいアスリートだと思います。



さあ、龍田小の皆さん。この2学期は、ぜひ今までの自分を超越してみましょう。人と自分を比べる必要はありません。自分の良さを伸ばしましょう。

そのために、何か一つでもがんばることを決めて、続けてみてください。掃除を徹底的にがんばる、暗唱に毎日取り組む、友達との話し合いを頑張る等など。

長く続けられると、みなさんにとって素晴らしいことが起こることと思います。

それでは、2学期も「自分も周りの人も大切に、笑顔あふれる龍田小学校」にしていきましょう。



【付け加え】4年生以上の皆さんには、担任の先生からお話がありますが、今年12月に百人一首交流会というものがあります。詳しいことは、また後日お知らせします。こちらも進んで取り組んでくれるとうれしいです。